

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
<http://www.saitama-kendo.or.jp>
(編集責任者 豊島正夫)

第3号 平成24(2012)年11月27日発行

(題字 野澤 治雄会長)



全国中学校剣道大会(埼玉大会)を顧みて



日本中学校体育連盟副会長 山下文孝
(埼玉県中学校体育連盟会長)

今年度の全国中学校体育大会は、関東ブロックで開催され、埼玉県では剣道を担当していただき、参加した選手・保護者・学校関係者の心に残る大会となりました。これもひとえに、全日本剣道連盟及び公益財団法人埼玉県剣道連盟会長 野澤治雄様をはじめとします関係各位の御尽力によるものと、日本中体連の担当副会長として衷心より感謝申し上げます。

さて、全国では約98,000人の中学生剣士が、この全国大会を目指し日々稽古に励んでおります。この数は、学校部活動として登録されたものであり、道場等に所属している生徒を含めると、もっと大きな数になると思います。御案内のとおり、本年度より中学校体育の授業において武道が必修となりました。今まで未経験だった生徒が、剣道の特性に触れ楽しさを味わうことにより、生涯を通して剣道に親しむことに期待しております。

本大会の開会式において、全日本剣道連盟会長 武安義光様にご挨拶をいただきました。その中で、剣道の魅力について、次のようにお話をされました。

「剣道の魅力は、人生何十年たっても、それなりの楽しみや充実感が得られます。私も中学生の時から剣道を始め、70年の月日が流れました。学生の頃は、厳しい稽古で試合に勝つことを目的にしていましたが、剣道は、勝つことが目的ではありません。人は、相手と向かい合えば、迷ったり恐れたりするもので、その弱さを自分自身を磨くことで、克服することができるんです。」この話は、中学生剣士だけでなく、応援される御家族、審判の皆様、そして学校関係者に感銘を与えたに違いありません。

役職柄、多くの大会に出席しておりますが、参加する選手のみならず補助役員生徒の頑張りがいつも心に残ります。本大会では、「おもてなしの心で」を合い言葉に、全国の皆様をお迎えできましたと感謝しております。

結びに、本大会を開催するに当たり物心両面にわたり御支援・御協力賜りました、全日本剣道連盟及び埼玉県剣道連盟の皆様、そして自ら春日部市立大沼中学校女子を率い、準優勝の栄誉に輝いた松岡光弘事務局長をはじめとする、実行委員会の皆様に重ねて御礼申し上げますとともに、剣道連盟の益々の御発展を祈念し巻頭言とさせていただきます。誠にありがとうございました。 (上尾市立上尾東中学校長)

「剣風」第3号 もくじ

○	巻頭言「全国中学校剣道大会(埼玉大会)を顧みて」(山下文孝)	P 1
○	「大会記録この1年」(2012後期)		P 2
○	頂点を目指して	・「全国教職員剣道大会(女子個人)に連覇を遂げて」 ・「岐阜国体、少年男子&少年女子に準優勝を飾って」 ・「全国中学校剣道大会女子団体に準優勝を果たして」(荒井貴子) (相川浩一、平井健輔) (松岡光弘、野村栄名)	P 2~4 P 3 P 4
○	我が師を語るー根岸光男先生と皆野高校剣道部ー(大澤規男)	P 5
○	生涯剣道と高齢剣友会(鋪野歓爾)	P 6
○	加盟団体紹介 小川支部 上尾支部 熊谷支部 久喜支部(あとがき)	P 7~8

「大会記録この1年」(2012年後期)全国大会(上位)入賞結果・県予選会結果(報告)

順不同

— 全国大会 —

- 全国教職員剣道大会 (8・12 山形市)
[女子個人] 優勝 (2年連続) 荒井貴子 (久喜)
- 全国中学校剣道大会 (8・19, 20 越谷市)
[女子団体] 準優勝 春日部市立大沼中学校
・優秀選手賞 野村菜名 (春日部大沼中)
・敢闘賞 伊藤勇太 (北本中)
- 国民体育大会 (10・1 岐阜・関市)
[少年男子団体] 準優勝 (端・田中和・田中翔・泉・持井)
[少年女子団体] 準優勝 (松本・辻本・伯耆田・千波・端)

— 全国・関東予選会 —

- 中学校学校総合体育大会 (7・24, 25)
兼全国関東予選会
- [男子団体] ①越谷東中 ②新座五中 ③白岡南中
④さいたま三室中 ⑤立教新座中 ⑥草加中
- [女子団体] ①春日部大沼中 ②川口青木中 ③越谷東中
④越谷西中 ⑤新座五中 ⑥入間東金子中
※上位2校は全国、6位まで関東大会出場
- [男子個人] ①長峰龍汰 (北本中) ②伊藤勇太 (北本中)
③設楽海斗 (新座五中) ④甲斐元揮 (越谷栄進中)
- [女子個人] ①野村菜名 (春日部大沼中)
②伊藤有菜 (越谷東中) ③白藤慶子 (新座五中)
④石井優希菜 (越谷西中)
※4位まで全国、関東大会出場

○国民体育大会関東予選会 (8・18)

- [少年男子] 予選リーグ第1組 ①埼玉
決勝 埼玉3-2茨城 (出場決定)
- [少年女子] 予選リーグ第1組 ①埼玉
決勝 埼玉2-3茨城 (出場決定)

○埼玉県剣道選手権大会第60回全日本剣道選手権大会予選会 (9・1)

- ①東永幸浩 (警察) ②橋本桂一 (東松山) ③米屋勇一 (警察)
(3位まで出場)

— 県内大会 —

○四地区対抗剣道大会 (8・3)

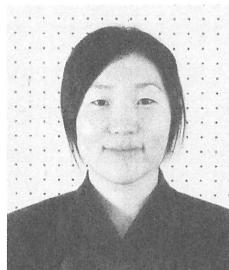
- ①西部地区 ②南部地区 ③東部地区 ④北部地区

○県剣道大会 (小学校の部) (10・28)

- [個人戦] 〈3年生の部〉 ①荒井順哉 (草加) ②岡野愛花 (久喜) ③齊藤心楓 (北本) ④小川彰太郎 (蕨)
〈4年生の部〉 ①山本莞典 (蕨) ②内村日向 (北本) ③領家康志郎 (蕨) ④大西尊 (北本)
〈5年生の部〉 ①細渕健斗 (入間) ②谷口美月 (北本) ③柳田耀大 (川口) ④塚田大翔 (上尾)
〈6年生の部〉 ①坂本拓哉 (入間) ②吉田悠悟 (東入間) ③臼井達哉 (狭山) ④鈴木悠誠 (北本)
[団体の部] ①久喜A ②上尾A ③川越A ④川口B
- 県剣道大会 (高校の部) (11・4)
〈男子の部〉 ①星野直樹 (本庄第一) ②小室雄一 (市立川口) ③永野雅大 (大宮東) ④小林大希 (寄居城北)
〈女子の部〉 ①端真璃華 (埼玉栄) ②辻本葵 (淑徳与野) ③遠藤知穂 (久喜) ④鈴木恵美 (埼玉栄)

頂点を目指して

「全国教職員 (女子個人) に連覇を遂げて」



去る8月12日、山形県山形市総合スポーツセンターで行われた全国教職員剣道大会に出場し、お蔭様で優勝することができました。埼玉県剣道連盟の皆様をはじめ、諸先生方に深く感謝を申し上げます。

一回戦目より苦しい試合展開となりましたが、焦らず自分のペースで取り組むことを意識して試合に臨みました。埼玉県チームとしては昨年同様、本大会への出場経験豊富な先生方が多く、精神的にも支えていただき有り難かったです。監督である門谷先生は大学の先輩でもあり、一緒に出場させていただいた栗田先生や菊地先生は、自分が高校生の時からご指導をいただいている先生方で、試合中の的確なアドバイスのおかげで決勝戦までコマを進めることができたのだと思います。

決勝戦は、山形県代表の佐久間陽子選手。地元選手ということもあり、応援も多かったのですが、自分でも驚く程にリラックスしていて、良い緊張感で試合に入ることができました。佐久間選手の技が何本かあたり、危ない場面もありましたが、自分の得意技である面が決まって勝つことができました。

今回の優勝に際して、三つの感謝があります。まず一

蓮田市立蓮田南中学校教諭 荒井 貴子

つ目は、稽古仲間の存在です。稽古会があれば連絡をくださる先生・先輩方。稽古会を連絡すれば集まってくれる仲間たち。大会当日も会場まで足を運び、応援をしてくれた仲間がいました。良き仲間であり良きライバルの存在が私に力をつけてくれました。

二つ目は、稽古場所です。現在私は、男子バスケットボール部の顧問をしています。勤務している中学校に剣道場はなく、稽古場所に悩む日も少なくありません。近くの中学校・高校や道場にお邪魔して稽古をさせてもらったり、稽古ができる時間に道場を開けてもらったりと支えていただきました。

三つ目は、稽古や指導していただける先生方の存在です。社会人になるとご指導をいただける機会が少なくなりますが、私には指導してくださる先生方がいます。小さな変化を見逃さずに指導してくれる先生方に感謝しています。またこの歳になっても上を目指し、剣道に精進することができるのも先生方のおかげです。全国大会等で活躍している先生・先輩方が身近にいるということは励みになり、“まだまだ頑張れる”と前向きに考えることができます。

今回も優勝を果たすことができましたが、課題や反省が多く残ります。より良い剣道を目指し、新たな目標に向かって、真剣に稽古に取り組んでいきたいと思います。今後ともご指導のほど宜しくお願いします。

「岐阜国体、少年男子&少年女子に準優勝を飾って」

少年男子監督 相川 浩一

岐阜県関市で開催された「ぎふ清流国体」において、お陰様で少年男子チームが準優勝することができました。これもひとえに、剣道連盟をはじめ応援を頂いた皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

8月に行われた関東ブロック予選において少年男子は優勝し出場権を得ることができました。近年、少年男子の部は、全国的に見て関東ブロックが一番難関ではないかと思います。このブロック予選で優勝できたことが大きな自信となり、優勝を目指して岐阜県関市に乗り込みました。

総合開会式にも参加させて頂き、9月30日いよいよ試合となりました。一回戦は、北海道と対戦し、大将戦で持井が勝利し、二回戦は宮崎県との対戦で、次鋒、中堅、副将と勝利して3-1で準決勝に残りました。

10月1日に行われた準決勝は和歌山県に3-1で勝つことができ、日本一をかけて福岡県と対戦しました。

福岡県は九州ブロックを1位通過しての国体出場ですが、選抜、玉龍旗、インターハイなどを見ても本県との力は



互角だと思いました。選手達には気後れのない様に、「時間をかけてもいいので、自分の得意な機会で勝負する様に」と指示をしました。

結果は、先鋒が8分間戦い一本負け、次鋒も延長戦での一本負け、中堅が延長に入り反則勝ち、副将が10分近い試合で一本負けし最終的には1-4で敗退しました。決勝戦で敗れはしましたが、一試合ずつ見ると緊迫感のあるいい試合でした。勝利はどちらに転んでも不思議ではなかったと思います。

本県の少年男子は、平成16年の埼玉国体で優勝し、平成18年兵庫国体準優勝、そして今年準優勝と、ここ10年間では3度目の決勝進出です。埼玉国体で培った強化が着実に結果となって実をむさんでいます。また、今回の選手は本庄第一の3名と埼玉栄の2名でしたが、これらの学校だけではなく県内での競争力も大きな力になりました。今後更により良い強化を重ね競技力の向上を図りたいと思います。

〈出場選手〉

先鋒 端 猛経（埼玉栄）
次鋒 田中 和弥（本庄第一）
中堅 田中 翔大（埼玉栄）
副将 泉 和毅（本庄第一）
大将 持井 亮紀（本庄第一）
補員 星野 直樹（本庄第一）

〈強化スタッフ〉

監督 相川 浩一（本庄第一）
コーチ 栗原 洋右（市立川口）
コーチ 蒔田 正人（埼玉栄）

少年女子監督 平井 健輔

この度、第67回ぎふ清流国体におきまして、少年女子準優勝という結果を修めることができました。この成績は、多大なるご支援をいただいた埼玉県剣道連盟、高体連剣道専門部、そして埼玉県の剣道を応援して下さる皆様のご協力の賜物だと感謝いたしております。6月のチーム結成から強化合宿や遠征、強豪大学での練習試合を行い、猛暑の中で選手は必死に努力を重ねて参りました。春の全国選抜大会準優勝の埼玉栄高校の選手を中心に力のある選手が選ばれましたが、レベルの高い関東ブロック大会を突破することは困難を極めることが予測されました。しかしながら大会当日は、たくさんの方々の応援を頂き、第2戦目の神奈川県には惜敗しましたが、初戦



の千葉県、第3戦の群馬県との試合に勝利することができ、2勝1敗の勝者数差でリーグ1

位になり、本国体出場を決めることができました。国体本戦では1回戦で北海道に勝利すると、その勢いで九州の強豪である福岡県、準決勝の大分県を破り決勝に進出することができました。決勝では地元岐阜県の勢いに圧倒されてしまいましたが、選手は正々堂々と素晴らしい試合を展開してくれました。ブロック大会から本戦決勝まで、楽な試合は一つもありませんでしたが、選手一人ひとりが助け合い素晴らしいチームワークを発揮してくれました。そのチームワークを発揮できたのも埼玉県剣道界全体の後押しではなかったかと思います。ありがとうございました。

〈出場選手〉

先鋒 松本 実姫（埼玉栄）
次鋒 遠藤 瑞（淑徳与野）
中堅 伯耆田 茜（埼玉栄）
副将 千波 愛梨（本庄第一）
大将 端 真璃華（埼玉栄）
補員 岡崎 愛美（淑徳与野）

〈強化スタッフ〉

監督 平井 健輔（淑徳与野）
コーチ 那須 健司（城北埼玉）
コーチ 菊地 道隆（上尾）

「全国中学校剣道大会女子団体に準優勝を果たして」

埼玉県初の開催となる、「第42回全国中学校剣道大会」が8月18日～20日に越谷市立総合体育館において行われ、本校の女子が団体で準優勝という結果を残すことができました。これもひとえに埼玉県剣道連盟会長の野澤治雄先生をはじめ、剣道連盟の先生方、高体連、中体連の諸先生方のお陰と深く感謝申し上げます。

団体戦の試合は2日目から行われました。予選リーグ1試合目は岩手県の花巻中との対戦でしたが、1-1の大将戦となり野村の二本勝ちで何とか勝利しました。その後は選手の動きの堅さも取れ、2試合目の三重の神戸中には3-0、決勝トーナメント1回戦目の福井県の明倫中には4-1で勝ち、ベスト8を決めたところで2日目を終えました。

3日目は個人戦に続き、団体戦準々決勝からの試合となります。まず、鳥取県の米子北斗中と対戦し3-0で勝ちました。準決勝は和歌山県の東和中との試合です。先鋒が勝ち次鋒が負け、中堅が勝ち副将が負けと、まったく五分の大将戦となりましたが大将の野村が面二本を決め、何とか決勝戦に進みました。

決勝戦の相手は新潟県の燕中です。昨年まで全国大会2連覇している強豪校です。これまで、多くの練習試合や大会では何度も対戦しており、昨年の若鷲旗では準々決勝で代表戦の末、倒しています。しかし、今までの燕中の対戦では勝っていた先鋒が、初太刀で一本をとられてそのまま負けると、次鋒以下の選手も相手のペースにはまり、あっさりと勝負がついてしまいました。最後に大将の野村が意地の二本勝ちをしましたが、1-4の完敗でした。昨年も4人が決勝戦に出場している燕中の経験の違いを最後に痛感し、勝負の難しさを改めて感じた試合となりました。

しかし、選手達は全国大会初出場での準優勝という結果は、本当によく健闘したと思います。この3年のメンバー4人は入学時から試合に出ており、1年の新人戦で優勝してから、昨年は関東大会ベスト8、新人戦での2連覇、そして今年は関東大会準優勝、最後に全国大会準優勝と着実にステップアップしてきました。この選手達の強さは、①「大舞台での気持ちの強さ」②「同じ相手に連敗しない学習能力の高さ」③「互いに言い合える本物のチームワーク」と「妥協しない練習」にあると思います。このチームに巡り会い、本当に幸せだと思いました。

最後に本県開催の全国大会では、たくさんの先生方や



表彰終えて（準優勝に輝く大沼中選手団）

春日部市立大沼中学校 監督 松岡 光弘

生徒のみなさんが役員として、それぞれの場所で責任を持ち、たいへん熱心に取り組んでいただきました。

また、大会当日には埼玉県剣道連盟の先生方をはじめ、地元埼玉の皆様に熱い応援をいただき、私達にとって大きな力となりました。本当にありがとうございました。感謝の気持ちを忘れずに、今後も生徒への指導に全力を尽くしていきたいと思います。

「私にとっての全国中学校剣道大会」

春日部市立大沼中学校剣道部主将 野村 葉名

私は中学校入学時から「全国大会優勝」を目標に稽古に取り組んできました。

それは、小学6年生の時に行われた県の強化会に参加させていただき、私達が中3の時に埼玉で全国大会が行われることを初めて知り、先生方からも「地元優勝を目指す頑張れ」という言葉をいただいたからです。

中学校に入学したときは、大沼中学校女子部員は5人という少ない人数で、しかも、ほとんどが1年生という状況でスタートしました。なかなかチームがまとまらず、夏の市内予選で負けて県大会にも出られませんでした。そこから私達は必死になって練習しました。数多くの練習試合も経験させていただき、徐々に力をつけ、昨年の学校総合体育大会県大会では決勝戦まで進みました。

しかし、まさかの決勝戦で負けて全国大会出場を逃してしまいました。本当に悔しい思いでいっぱいでした。でも、このことでチームが「ひとつ」になれたような気がします。今まで以上に集中して練習に取り組みました。そして、新人戦に優勝して、12月には兵庫県で行われた若鷲旗で優勝することができました。私達にとって全国大会に向けてのとても大きな自信となりました。その後も気を抜くことなく練習を積み重ね、何とか7月の県予選を突破して、夢の全国大会への出場が決まりました。

全国大会では、地元開催ということで、たくさんの先生方や生徒役員のみなさんが準備をしてくださいました。私達は大会前の練習後に、2階席から入場行進や掲示係のリハーサルの様子を見させていただきました。真剣な表情で何度も何度もやり直し練習している仲間たちを見て、「絶対に勝ちたい」という思いが強くなりました。

大会は初戦から厳しい試合でしたが、私達らしい「つないで勝つ剣道」ができたと思います。だれかが負けても、だれかがカバーして、最後はチームで勝つ剣道です。特に、準決勝の和歌山県東和中との試合は良かったと思います。

決勝戦は残念ながら前のポジションで、チームの負けが決まってしまいましたが、私は埼玉県代表の大将として絶対に勝ちたいという思いで戦いました。準優勝という結果は悔しさもありますが、自分達にとってとても良い経験ができたと思います。このような結果を残せたのは、今まで指導していただいた先生方や保護者を始め、たくさんの方々に支えていただいたお陰だと強く思っています。これからも、この感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

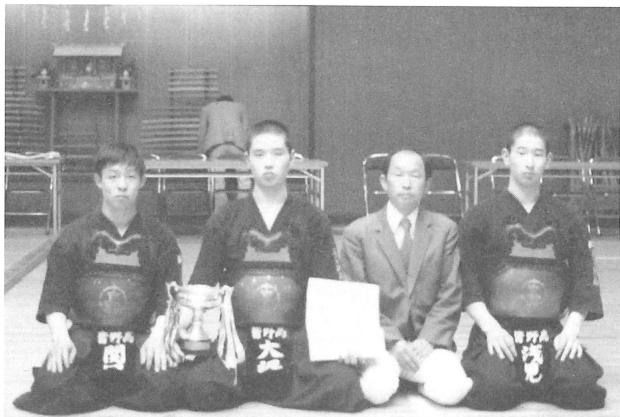
「我が師を語る」—根岸光男先生と皆野高校剣道部—



「何事も基礎が大事。」「基礎ができていれば将来に繋がる。」良く言われる言葉ですが、私の人生の基礎と剣道の基礎を築いてくれたのは高校時代の恩師根岸光男先生です。先生の指導は全国でも知られたスパルタ指導の筆頭であり、「一切妥協しない。」と言うのが先生のモットーでした。

根岸先生には剣道の美の理想論があり、試合で負ければ当然厳しい指導を受けますが、勝っても自分の理想としない試合内容ならば「勝ち方が悪い。」と負けた時と同然の強烈な指導が待ち構えていました。さらに稽古以外でも妥協しませんでした。

私はある朝近県遠征稽古の日39度近い熱を出してしまったことがあります。私も親もこの日ばかりは無理と判断して先生に「休ませて下さい。」と電話をしました、先生は「ノリがこない」と遠征の意味がない。お父さん連れて来て下さい。」その一言で震えながら死ぬ思いで試合をすることもありました。先生の教えの中に「社会に出てから苦しい事や辛いことにぶちあたった時あの茹だるような中での暑中稽古、激寒の中での雑巾掛け、ヘトヘトでぶつ倒れても止むことのない竹刀の嵐、足の裏は割れ肉が血まみれになりながら続けた稽古等、あの時のことを思い出せ。きっと乗り越えられるはずだ。」と何回となく語っていました。これが先生の目指した人間形成の道だと思います。また、僕も厳しく、ある大会の閉会式にコートを着て参加したことを先生は激怒し全員が厳しい指導を受けたこともあります。先生は、剣道技術のみならず、人間として何が必要でどうしなければならないのかを教えてくれたように思います。



根岸先生を囲み、関口・大澤・浅見、同期の3人

教士八段 大澤 規男(昭和53年度卒業)

同窓のOBから一言

* 先生は、生徒に対して誰よりも愛情を注ぎ剣道を愛し、将来をも見据え熱く指導に当たられた素晴らしい先生です。日頃の指導での口癖は「気力、しめろ」と技術面より精神面を重視された言葉が多く稽古においては一切妥協を許さない厳しく常に限界を求めた稽古内容でした。先生との出会いがあったからこそ現在の自分があり感謝の念でいっぱいです。 中野堅司(昭和51年度卒業)

* 高校三年間は、道場で鬼と化した先生の熱き指導を信じ耐え忍び、サイボーグ化する肉体と内心との日々戦いの場でもありました。今では語れない鬼のスパルタ指導を受け入れられたのは、心から愛情を注いで将来に亘る人間形成の道を指導して下さった先生の心意気を感じていたからだと思います。今瞼を閉じ先生を思い出すと、鬼の先生ではなく満面の笑みで豪快に笑い、優しく微笑む顔しか思い浮かびません。そんな先生は最高の宝です。 島田浩徳(昭和52年度卒業)

* 歯を食い縛って血と涙と汗を流しながら師について行った3年間。師の教えは厳しく、肉体的にも精神的にも苦しかった。氷点下10度を超える極寒の中でも正月の3日間以外は毎日朝稽古が行われた。足裏はひび割れ、ざっくり肉が見える。死に物狂いの稽古。今感じる師は、暖かさと優しさの固まり。その神髄から我々を鍛え上げてくれた。我が人生の道標である。師から頂いた教えは永遠に生き続けている。

浅見和義(昭和53年度卒業)

* 中学2年生の時一度皆野高校に稽古を行った事がある。その時の根岸先生の印象は、体が小柄で声が大きく、笑顔と優しい話し方が印象的だった。約三時間の稽古はまさに地獄、帰る時「二度とこの学校に来ることはない。」と心に決め帰宅したが、父からの勧めと剣道が強くなりたい一心で皆野高校に入学、今私が在るのは根岸先生のご指導のお陰、感謝でいっぱいです。

加藤康幸(昭和58年度卒業)

最後に、そんな我が師は、平成2年6月5日交通事故で59歳の時帰らぬ人となってしまいました。先生が亡くなつて22年が過ぎた今でもこの様な形で先生を紹介させて頂けることに最高の喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。先生の志はこれからも生き続けて行くことでしょう。感謝

「埼玉高齢剣友会の歩みと生涯剣道」



埼玉高齢剣友会も発足以来10年の節目を迎えようとしている。会員の皆さんのが、剣道をこよなく愛する心、剣友の絆、稽古の真剣な取組みと向上心、そして結束力が原動力である。又今まで熱心にご指導、ご支援、ご協力を賜わった公益財団法人埼玉県剣道連盟の先生方、そして関係各位、東西南北各地域の先生方に改めて厚く感謝申し上げます。

顧みると、私もねんりんピックで何度か埼玉県代表として出場しましたが、その熱意に圧倒されました。特に、平成12年11月のねんりんピック大阪大会に県代表選手として出場した際の、各都道府県選手の若々しい生き生きとした雄姿に接し胸を打たれました。剣道をこよなく愛する者同志が各人各様に日々研鑽努力を重ねて、交剣知愛の精神と、勝敗を離れて親睦を深め、剣縁の絆を大切になごみ合う姿のなんと美しい事でしょう。深く感動しました。試合稽古の終った後の爽快さは最高です。

その後有志で、山形、宮城、福島での各大会や、全日本高齢者武道大会等に出場し、各都県の高齢剣の活動状況を目の前にし、本県も早速高齢剣友会をつらねばと有志が集い（木村事務局長）（松実先生）（初代須永会長）を中心にして準備に取りかかった。その時すでに、東北6県、茨城、東京、神奈川では剣友会が発足していました。先進都県の事務局長の助言や協力を戴き、又県内の同好の志に呼び掛けると同時に元埼玉県剣道連盟会長大久保和政先生はじめ副会長（現埼玉高齢剣友会相談役）の茂木先生のご指導とご支援ご協力を戴き、平成16年1月31日発会式を立ち上げることが出来ました。特に会則の中で、「段位の上下は問わない、序列は年齢順」とした。会員の構成をみると、40才～70才の剣友で4段～6段の人が多く、中年で始めた人、仕事や家庭の事情で中断した人等も多く、やゝもすれば疎外されがちな高齢剣士の受け皿になった面もありました。発足当初は50数名であった会員も、現在では130名となり、毎月の定例稽古会（第3土曜日）や東西南北で会場を持ち廻り、平均50名の参加者で、午後1時30分～4時30分（前半の稽古・休憩時に数組



埼玉高齢剣友会会长 鋸野 獅爾
(埼剣連顧問、同・元副会長)

の立会い、後半の稽古）そして、女性会員も9名を含み、八段の先生のご指導のもとに切磋琢磨し活況を呈しています。そして稽古内容の充実を図るために八段の先生方を年間4～5回招聘しご指導を賜わっております。

○主な試合と対外活動については例年下記の通りです。

- 4月 埼玉県高齢者剣道大会を経てねんりんピック全国大会に参加（全国では埼玉県はベスト4が最高）
- 5月 宮城鳴子剣道大会参加（個人戦で優勝・二位・三位入賞）
- 6月 ○全日本高齢者武道大会参加（団体2位・各年代（個人）で優勝・2位・3位入賞）
埼玉県高齢者剣道大会参加
- 7月 関東・東北高齢剣友会合同稽古会（1都7県）参加（栃木・茨城・埼玉・福島・東京・神奈川・群馬・新潟の当番順）
- 8月 ○埼玉高齢剣友会と少年剣士との合同稽古会（東・西・南・北）地区の順番で実施（各地区とも200名近い人数で盛会）
福島相撲杯争奪剣道大会は現在大震災のため中止
- 9,10月 全日本高齢剣友会親善交流稽古会（長野）
2泊3日
- 11月 埼玉県警察剣道嘱託教師会との宿泊合同稽古会

※この他各都県の周年記念剣道大会・稽古会等多数参加

○埼玉高齢剣友会の会員の構成については下記の通りです。（男性116名（93%）、女性9名（7%）

年代別内訳は、・50才代—3名（女性2名）・60才代—75名・70才代—37名・80才代—15名（87才—井上・木村・太田、85才—石川・茂木、84才—松実、83才—早野・富澤・宇津木、81才—黒田、80才—山下・鋸野・君島・桑原）となっている。

本会が発足し、この十年を節目として想う今日の世相は、高齢者の孤独と無縁社会の進む中で、剣縁を通して好きなこの剣道にのめり込み、無心になって稽古に汗を流し、「諍友の精神」で語らいつつ剣友の輪を広げ、この素晴らしい剣道文化を守り通し、次代を担う青少年に伝承するためにも生涯剣道を貫き、健康で義理深く生き抜いて年輪を重ね、共々気概をもって悠々と「彩劍歩悠道」三無の剣を学び合い、剣徳をもって、更にもう一歩を踏み出す決意です。今後とも先生方、関係各位の一層のご指導とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※尚この際ご入会のご希望の方は下記にご連絡下さい。
(ご入会大歓迎です。)

○埼玉高齢剣友会理事長（事務局長）木村喜一
TEL 048-773-6724（住所 桶川市西2-8-13）

加盟団体紹介(その③)

小川地区剣道連盟 -「四端」を、旗印に人間形成の道を歩む-

会長：松本 龍夫 事務局長：中嶋 秀雄

小川警察署管内の小川町、嵐山町、ときがわ町、東秩父村が入っています。残念ながら東秩父村には、現在は会員が居りません。

各町には、それぞれ剣道会、剣道スポーツ少年団があり、週1～2回程度の稽古会を行ない、子供たちの指導と、自分達の稽古を行なっています。当連盟の役員として、各町よりまんべんなく理事、会計、監事等が選任され、年3～4回の理事会を開き情報交換や行事、事業の役割分担を決め運営しています。事業としては、昇級審査会、月一回の合同稽古会、最も大きいものは、小川地方武道振興会の主催する三道大会です。剣道のほか、柔道・弓道の大会も同時に開かれます。三道大会（剣道大会）は、会員が役員・審判員等の役割を担い大会を運営します。大会に当たっては、若者達の会員が紅白に分かれ、子供たちの前で模範試合を行ない大会を盛り上げます。今では子供たちは減少し、大会の参加者数は約300人程度になってしまいました。行事としては他に、寒稽古を各地区ごとに一週間程度実施しています。町ごとに年一回記念の剣道大会も行なわれます。若者達の会員で、稽古と親睦をかねて「緑風会」を結成し、毎週一回嵐山町海洋センターで稽古会を行ない、年に一回は「緑風会大会」を行なっています。



連盟でも、彼らの活動を応援し、また彼らの力を大いに頼りにしています。連盟の合同稽古会は、月一回第三土曜日に嵐山町の海洋センターで行なっています。なかなか盛況で、近隣の地区からも稽古に来るようになりました。稽古を盛んに行なうと徐々に会員が増えてきましたが、子供たちの減少が止まらないのが悩みの種です。もともと人口の少ない地域ですから仕方ありませんが、中学生、高校生、子供の頃剣道を経験した人や、他の地区から移住してきた人に声をかけ、会員数を増やすようにしています。連盟の発展は、あらゆる階層に声かけをして会員を増やすことにあると考えます。

上尾剣道連盟 -更なる飛躍を目指して-

会長：野澤 治雄 事務局長：小林 芳弘



1. 沿革及び現在の組織

上尾剣道連盟は上尾警察署の開設に伴ない、上尾市・桶川市・伊奈町の二市一町の剣道関係者のご尽力により、昭和46年に設立され今年で41年目を迎えた。それ以前は上尾が大宮支部に、桶川・伊奈が鴻巣支部に所属し稽古に励んでいた。

現在の上尾剣道連盟の三役は、会長野澤治雄、副会長小野英雄・田中章・七田憲治・渋谷忠幸・神谷昌広、理事長林貞次が務めている。

昨年は上尾剣道連盟発足以来はじめて、埼玉県剣道連盟会長に野澤治雄が就任することになり、埼剣連会長として剣道界の発展のために更なる活躍ができるように、上尾剣道連盟総会の中で新三役体制（副会長三名増員）を提案、満場一致で採択された。

上尾剣道連盟会員一同が埼剣連会長就任を喜ぶと同時に責任の重大性に鑑み、組織が一丸となった支援体制を整えている。

上尾剣道連盟の構成は、各稽古所10団体の会員と小学生・中学生等の準会員からなり、青少年の健全育成と地域剣道の普及発展に貢献すべく取り組みを進めている。

2. 事業活動

主な事業は、埼玉県剣道大会の小学生代表を決める『選抜剣道大会（中学生・高校生含む）』、役員・一般会員による『野澤杯争奪剣道大会』、普段試合に出られない『小学生・中学生のための剣道鍛成会（全員参加）』、大晦日恒例の『越年稽古会』や『昇級審査講習会』、『審判講習会』、『剣道一級審査会（年3～4回）』などを実施している。

また、上尾市剣道連盟や桶川剣道連盟主催の各種大会にも多くの青少年が参加し、剣道技術の向上や仲間づくり『交剣知愛』に努めている。

こうした取り組みにより、各稽古所から全国大会や県大会レベルで入賞するなど、輝かしい成績を収めている。

3. 課題と抱負

近年の傾向は少子高齢化に伴ない小学生の剣道入門者が減少傾向にあり、各稽古所が創意工夫をしながら入門者の拡大に努めている。

一方、中学生の剣道入門者は増加傾向にあり、今年から始まった『中学校武道必修化』に弾みをつけて、『礼儀作法』や『仲間意識・相手を敬う心』の醸成など、『剣道を通じた人づくり』のために上尾剣道連盟の役割が増大しており、更なる飛躍を目指して積極的に取り組みを進めている。

熊谷剣道連盟 ー友好剣・活人剣ー

会長：石野 茂 事務局長：柿沼日出美



かつて、源頼朝に「日本一の剛の者」と称えられた熊谷次郎直実生誕の地に、熊谷剣道連盟は、1952年に結成され、以後発展の一途をたどり、現在一般会員は約180名に達し、県下でも誇れる団体になりました。

本連盟は、剣道の理念を尊重し、郷土の剛健なる気風の育成をはかり、会員相互の親睦を図ることを目的とし、毎週火曜日と金曜日に熊谷市立大原中学校の剣道場において少年少女剣道教室を実施し、その後20時より一般の稽古を行っております。毎回40名を超える剣士が厳しい真剣勝負を行いながらも、友好を深めています（年齢構成は10代から70代、遠くは群馬県からも参加）。また、基本を身につけるために、第一、第三、第五月曜日の19時から、日本剣道形、木刀による剣道基本技稽古法の稽古を実施しています。

恒例行事としては、5月の春季熊谷剣道大会、6月の青少年剣道大会（熊谷東ロータリークラブ主催）、10月の熊谷市総合体育大会剣道大会、3月と8月の剣道講習会、さらに暑中稽古、寒稽古等があります。また、市内各地域の指導者による剣道指導も盛んに行われています。さらに特色のある伝統行事としては、1969年に始まり毎年9月頃に行っている遠征旅行があります。遠くは岩手、山形、福島、新潟、富山、静岡、長野等に貸し切りバスで出かけ、地元の剣道連盟の会員と稽古を行い、その後温泉で一泊し会員の親睦を図り、翌日は名所旧跡を訪ねて帰るもので素晴らしい行事です。

また、組織の活性化のため規約を改正し、役員は70歳で全ての役職、審判から退き、さらに自主的に4年をめどに交代をするというような画期的な運営を行っております。

このように、本連盟は会員がそれぞれの立場で責任を分担しながら、率直に建設的な意見を会議に反映させ、透明性、柔軟性をもって組織の発展と地域社会への貢献、青少年の健全な育成を心掛け英知を結集しております。なお、ホームページも開設しておりますのでご覧頂きたいと存じます。

久喜剣道連盟 ー青少年健全育成と生涯剣道ー

会長：戸賀崎正道 事務局長：松本 栄一



1 沿革と地区内剣友会・道場 {名称（代表者）}

久喜地区は、江戸後期に「江戸三大道場」のひとつと言われた、神道無念流々宗戸賀崎熊太郎暉芳の生誕の地（久喜市上清久）であることは、剣道界に於ては衆目されているところである。久喜の道場は大正時代に閉館したが、平成15年に現会長の戸賀崎正道が再興し、久喜地区以外からも稽古に参加し、日々切磋琢磨している。

久喜地区（久喜市・旧菖蒲町・旧鷺宮町・旧白岡町）の剣道連盟は、昭和29年に埼玉県剣道連盟より支部として認可され、久喜地方の青少年に、剣道を通して心身の鍛錬をはかり、健全育成することを目的として活動してきた。平成18年には、蓮田市剣道連盟が久喜支部（当時）に加わり、更に広範囲に活動している。

久喜剣友会（榎本善仁）、菖蒲剣心会（岩部澄）、鷺宮剣道クラブ（加庭栄之助）、白岡市剣道連盟（大根田英昭）、江面剣道クラブ（飯田栄）、久喜警察署剣道教室（関口啓一）、爽風会（小能秀輝）、恵文館（戸賀崎正道）、長生館（倉田栄一）、蓮田鍊心館（小引律子）、蓮田市城剣友会（川下紘生）、黒浜少年剣友会（久保田康規）、蓮田少年剣友会（大橋裕司）の剣友会等13で構成される。

2 活動状況と今後の抱負

当連盟の目的とする青少年の健全育成は、昭和31年11月に久喜地方防犯推進協議会、久喜警察署のご支援を得て、第1回青少年補導柔剣道大会として開催以来、毎年11月に会場を一市三町の持ち廻りとして開催し、本年は第55回大会を久喜市内で開催する。又、交剣知愛の精神を基に、昭和60年より東部地区の各団体・中学校を招待して久喜剣道大会を開催し、近年では東部地区以外からの参加希望もあり、今年の第28回大会では、66団体の選手及び役員総数が、990名余となり、非常に喜ばしいことである。当大会の最大の特徴は、一般的の部にシニアの部（先鋒55歳以上、中堅・大将60歳以上）も設けていることであり、生涯剣道を推進する意味でも非常に有意義であると考える。他に、平成15年より小学3年生以上の30名余を対象として、約半年間の強化練習会を実施し、埼玉県小学生大会に於いて平成20・21年に二連覇を達成し成果を得ている。その他の行事として、級審査会を年に3回、合同稽古会、中学生及び女子と四・五段受審者講習会等を実施している。

今後の抱負としては、青少年の健全育成に寄与しつつ、生涯剣道を目標とし、会員が心をひとつにして当連盟の発展と剣道の普及に努めていく所存です。

あとがき この1年、春の選抜優勝（本庄第一男子）、準優勝（埼玉栄女子）に続く快挙として、岐阜国体からは少年男女準優勝の朗報が届いた。一方、地元開催の全国中学では、春日部大沼中女子が堂々の準優勝を飾った。こうした若き力が本県躍進の原動力となっている。50年史発刊から10年、この間の栄光の足跡と埼剣連の動向を伝える10年史編集委員会が組織された。明日への展望を拓きつつ編集作業は進められている。(豊島)